

都市再生整備計画 事後評価シート  
札幌駅・大通駅周辺地区

平成28年3月

北海道札幌市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	札幌市		地区名	札幌駅・大通駅周辺地区			面積	57.9ha		
交付期間	平成23年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	1,539.5百万円		国費率	0.45			
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(大通交流拠点整備事業)										
		提案事業											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名			削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	高質空間形成施設(札幌駅前公共地下歩道(地下鉄さっぽろ駅部)整備事業)			都市再生推進事業費補助を活用することとなったため				なし			
	新たに追加した事業	基幹事業	高次都市施設(大通交流拠点整備事業)			当初は地域生活基盤施設での整備を想定していたが、その後の整理で高次都市施設が妥当であると判断されたため				なし			
提案事業		地域創造支援事業(大通交流拠点整備事業)			当初は地域生活基盤施設での整備を想定していたが、その後の整理で提案事業(地域創造支援事業)が妥当であると判断されたため				なし				
交付期間の変更	当初	平成23年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	-											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	歩行者交通量	人/12時間	82,666	H22	95,644	H27	-	133,873	○	あり なし	施設の移転・集約により円滑な動線が確保できたことに加え、札幌駅前通地下歩行空間等の周辺開発による相乗効果もあり、歩行者交通量が大幅に伸びた。	
	指標2	歩行者空間の魅力度	%	25.1	H22	36.0	H27	-	61.7	○	あり なし	明るく見通しの良い歩行空間の確保や、市民サービス・情報発信機能の拡充により、空間に魅力を感じる利用者が増加した。	
	指標3	滞留している人の数	人/12時間	143	H22	169	H27	-	610	○	あり なし	市民や来訪者が滞留できる魅力的な空間を整備した結果、滞留者数の増加につながった。	
	指標4										あり なし		
指標5										あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	事業を実施したことにより、大通交流拠点内の民間ビルの建て替えが促進された。(明治安田生命札幌大通ビル)												
5)実施過程の評価	実施内容												
	モニタリング		実施状況			今後の対応方針等							
	住民参加プロセス		都市再生整備計画に記載し、実施できた										
	持続的なまちづくり体制の構築		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した										

## 様式2-2 地区の概要

札幌駅・大通駅周辺地区(北海道札幌市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標: 道都札幌にふさわしい活気に満ちあふれた魅力ある都心の実現 目標1: 四季を通して快適に歩ける空間の創出による都心の回遊性向上 目標2: 魅力ある滞留空間・交流拠点の創出	歩行者交通量	単位: 人/12時間	82,666 H22	95,644 H27	133,873 H27
	歩行者空間の魅力度	単位: %	25.1 H22	36.0 H27	61.7 H27
	滞留している人の数	単位: 人/12時間	143 H22	169 H27	610 H27
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通行の障害となる位置にあった施設を移転・集約することで円滑な歩行者動線を確保することができた。</li> <li>・滞留空間の整備や情報発信機能の拡充等により、利用者の利便性が向上し、都心の結節点にふさわしいにぎわいが創出された。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主たるハード整備はほぼ達成されたので、今後はその効果を持続・発展させるための活用などソフト面の充実が課題。</li> <li>・地下広場としての魅力の維持や都心全体の回遊性の向上には、周辺商店街や駅前・大通の両まちづくり会社との連携が必要。</li> <li>・地下部に加えて地上部においても、交流拠点としてふさわしい快適な歩行者環境の整備や都市景観の改善を進めることで、交流拠点としての質を高める。</li> <li>・南北の通行空間に一部残る階段は、周辺の民間開発への取り込みを促す。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	大通交流拠点	2,160	大通交流拠点の整備、観光交流センターの整備、図書カウターの整備、証明サービスコーナーの整備	1,383	大通交流拠点の整備	事業の一部を高次都市施設、提案事業(地域創造支援事業)、並びに効果促進事業(社交金)に変更(事業内容に変更なし)	影響なし		●
高質空間形成施設	札幌駅前公共地下歩道	150	札幌駅交流拠点の整備			都市再生推進事業費補助を活用することとなったため事業の削除	影響なし		
高次都市施設	大通交流拠点			44	観光交流センター	当初は地域生活基盤施設での整備を想定していたが、その後の整理で高次都市施設に変更(事業内容に変更なし)	影響なし	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	図書カウンター整備			112	図書カウンターの整備	当初は地域生活基盤施設での整備を想定していたが、その後の整理で地域創造支援事業に変更(事業内容に変更なし)	影響なし	●	
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
札幌駅前通地下歩行空間整備事業		地下鉄南北線さっぽろ駅～国道230号 札幌市中央区北1条西3丁目～大通西3丁目	23,058	23,058	平成17年度～平成23年度	平成17年度～平成23年度	平成23年度完了	
大通交流拠点整備事業(効果促進事業)		地下鉄大通駅コンコース～大通西4丁目		424		平成24年度～平成27年度	平成27年度完了予定	
南2西3南西地区市街地再開発事業		札幌市中央区南2条西3丁目		17,120		平成25年度～平成31年度	事業進行中	



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	歩行者交通量	人/12時間 大通交流拠点の地上(5地点)・地下(3地点)における、歩行者通行量を計測・集計し、調査員による聞き取り調査(全5問)の結果、回答が「通勤・通学途中」及び「業務途中」以外であるものの割合を乗じて算出。	-		82,666	H22	95,644	H27	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ● 見込み	133,873	事後評価	○			
指標2	歩行者空間の魅力度	調査員による聞き取り調査(全5問)の結果、回答が「魅力的である」と答えた人の割合。	-		25.1	H22	36.0	H27	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ● 見込み	61.7	事後評価	○			
指標3	滞留している人の数	調査範囲内で談笑、待ち合わせ、携帯電話利用等の立ち止まっている人数(瞬間人数)を1時間毎に一回計測し12時間の合計値を算出。	-		143	H22	169	H27	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ● 見込み	610	事後評価	○			
指標4									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ● 見込み		事後評価				
指標5									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ● 見込み		事後評価				

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	施設の移転・集約により円滑な動線が確保できたことに加え、札幌駅前通地下歩行空間等の周辺開発による相乗効果もあり、歩行者交通量が大幅に伸びた。	近年のインバウンド増加も効果発現要因として考えられる。 なお、地上歩行者数が減少しているが、調査時期が冬期(従前は夏期)であることが影響したと考えられる。
指標2	明るく見通しの良い歩行空間の確保や、市民サービス・情報発信機能の拡充により、空間に魅力を感じる利用者が増加した。有識者を含めたデザイン会議を経て、利便性・快適性ともに質の高い空間を創出することができ、期待以上の成果を上げることが出来た。	
指標3	市民や来訪者が滞留できる魅力的な空間を整備した結果、滞留者数の増加につながった。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単位	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標1						モニタリング				
						事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2						モニタリング				
						事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3						モニタリング				
						事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

事業を実施したことにより、大交通流拠点内の民間ビルの建て替えが促進された。(明治安田生命札幌大通ビル)

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内組織による検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民まちづくり局都心まちづくり推進室都心まちづくり課</li> <li>・観光文化局観光コンベンション部観光企画課</li> <li>・交通局高速電車部業務課</li> <li>・教育委員会中央図書館サービス課</li> </ul>	平成28年3月4日、3月7日	市民まちづくり局都心まちづくり推進室事業調整担当課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標〇	
指標名		歩行者交通量		歩行者空間の魅力度		滞留している人の数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設	◎	施設の移転・集約により円滑な動線が確保できたことに加え、札幌駅前通地下歩行空間等の周辺開発による相乗効果もあり、歩行者交通量が大幅に伸びた。	◎	明るく見通しの良い歩行空間の確保や、市民サービス・情報発信機能の拡充により、空間に魅力を感じる利用者が増加した。また、夜間も利用可能な図書カウンターを設置等市民サービスが充実したことや、観光交流センターの整備、利便施設の集約によるにぎわいの向上も、空間そのものの価値向上に寄与しているものと考えられる。	◎	市民や来訪者が滞留できる魅力的な空間を整備した結果、滞留者数の増加につながった。設計段階でのアクティビティ分析により通行空間と滞留空間をゾーン分けしたことが効果を高めたと考えられる。		
	高次都市施設	○		◎		○			
提案事業	地域創造支援事業	○		◎		○			
関連事業	札幌駅前通地下歩行空間整備事業	◎	○	○					
	大通交流拠点整備事業(効果促進事業)	○	◎	○					
	南2西3南西地区市街地再開発事業	—	—	—					

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	2030年に予定されている新函館北斗～札幌の新幹線開通による更なる交通量増加を見込み、札幌駅交流拠点の地下空間の拡充による都心の回遊性向上を図る。	まちづくり会社や商店街と連携した魅力ある情報発信を行うことで、交流拠点としての質を高め、更なる利用促進を図る。	利用者のアクティビティや場所の特性に応じた空間整備を更に進める。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○			指標○			指標○			指標○		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			
------------------	--	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内組織による検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民まちづくり局都心まちづくり推進室都心まちづくり課</li> <li>・観光文化局観光コンベンション部観光企画課</li> <li>・交通局高速電車部業務課</li> <li>・教育委員会中央図書館サービス課</li> </ul>	平成28年3月4日、3月7日	市民まちづくり局都心まちづくり推進室事業調整担当課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
札幌駅前地下歩行空間の開業に伴い、地下歩行空間のネットワークが形成され、歩行者が増加しており、これに対応した整備が必要である。	通行の障害となる位置にあった施設を移転・集約することで円滑な歩行者動線を確保することができた。		
地下歩行空間のネットワークの結節点となる当地区においては、都市生活の豊かさを幅広く支える拠点として利便性の向上や賑わい機能、文化芸術などの情報発信の充実が求められる。	滞留空間の整備や情報発信機能の拡充等により、利用者の利便性が向上し、都心の結節点にふさわしいにぎわいが創出された。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	地下広場としての魅力の持続と交流拠点としての回遊性の向上	札幌市の地下歩行空間ネットワークの結節点を強化し、四季を通して快適に歩ける地下空間を創出することにより、都心の回遊性を向上させる。	札幌駅交流拠点における地下空間の拡充
	地下広場との相乗効果を生む、交流拠点地上部の魅力向上	地下部に加えて地上部においても、交流拠点としてふさわしい快適な歩行者環境の整備や都市景観の改善を進めることで、交流拠点としての質を高める。	公共駐輪場の整備や放置禁止区域の設定など、路上放置自転車対策

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
—	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
—	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

歩行動線に残る出入口階段は、接続ビルの建替えに伴い配置変更する予定。

**添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画**

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	歩行者交通量	人/12時間	82,666	H22	95,644	H27	確定 ●			あり	→		
							見込み						
指標2	歩行者空間の魅力度	%	25.1	H22	36.0	H27	確定 ●			あり	→		
							見込み						
指標3	滞留している人の数	人/12時間	143	H22	169	H27	確定 ●			あり	→		
							見込み						
指標4				H		H	確定			あり	→		
							見込み						
指標5				H		H	確定			あり	→		
							見込み						
その他の数値指標1				H			確定 見込み				→		
その他の数値指標2				H			確定 見込み				→		
その他の数値指標3				H			確定 見込み				→		



**添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方**

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		従前従後の変動要因を明解にするため、調査時期は合わせた方が良い。
	うまく いかなかった点	地上歩行者の交通量が従前に比べ減少したが、これは調査時期が従前は夏期であったのに対し従後は冬期(積雪期)であることが起因していると考えられる。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		正確な効果検証を行うためには、モニタリングを実施した方が良い。
	うまく いかなかった点	歩行者交通量の増加は同時期に整備された札幌駅前通地下歩行空間や周辺ビル開発の影響が大きく、正確な効果検証に苦慮した。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

**添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)**

(次期計画)  
都市再生整備計画 大通駅周辺地区 (北海道札幌市 平成28年4月)

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	都心まちづくり推進室のホームページに原案を公表	平成28年3月8日～3月15日	平成28年3月8日～3月15日	担当部署への電子メール、FAX又は郵送	市民まちづくり局都心まちづくり推進室
広報掲載・回覧・個別配布	広報誌に市のホームページで原案を公表している旨を掲載	平成28年3月1日	平成28年3月8日～3月15日		
説明会・ワークショップ					
その他	都心まちづくり推進室で原案閲覧及び配付	平成28年3月8日～3月15日	平成28年3月8日～3月15日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	—	平成28年3月24日	市民まちづくり局都心まちづくり推進室	都市再生整備計画事後評価業務報告書	独自に設置
その他の委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>札幌駅前通まちづくり株式会社 統括マネージャー</li> <li>札幌大通まちづくり株式会社 取締役統括部長</li> <li>平和不動産株式会社 札幌支店長</li> </ul>				

審議事項※1	委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	
方法書	—
成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備後の利用状況により、快適な滞留空間が整備されたことが認められた。</li> <li>観光交流センターでは整備前と比べ利用者が増加しており、利便性が向上したことを実感しているとの意見があった。</li> </ul>
実施過程の評価	—
効果発現要因の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前調査と事後調査の調査時期が異なるため比較条件が一致していない、という指摘があったが、調査時期を補正した場合も目標値が達成されていることを補足資料を用いて説明し、委員の理解を得た。</li> </ul>
事後評価原案の公表の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後評価原案の公表及び修正対応は妥当であると認められた。</li> </ul>
その他	—
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後評価の手続きは妥当であると認められた。</li> </ul>
今後のまちづくりについて審議	
今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続した調査・分析で経年変化を見ることも大切だという意見があった。</li> <li>地下広場でのイベント開催など空間の利活用や、地下歩行空間との連続性には課題を感じているという意見があった。</li> <li>民間開発との連携による更なる改善を期待する意見があった。</li> </ul>
フォローアップ	—
その他	—
今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。</li> </ul>
その他	—

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

# 都市再生整備計画

さっぽろえき おおどおりえきしゅうへん  
札幌駅・大通駅周辺地区

ほっかいどう さっぽろし  
北海道 札幌市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	サッポロシ 札幌市	地区名	サッポロエキ オオドリエギョウヘナク 札幌駅・大通駅周辺地区	面積	57.9 ha
計画期間	平成 23 年度	～	平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度	～	平成 27 年度

### 目標

#### 大目標 道都札幌にふさわしい活気に満ちあふれた魅力ある都心の実現

- 目標1 四季を通して快適に歩ける空間の創出による都心の回遊性向上
- 目標2 魅力ある滞留空間・交流拠点の創出

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

札幌市では、「第4次札幌市長期総合計画」(平成11年度)において、「魅力的で活力ある都心の整備」を主要な施策の一つに掲げ、これを受けて策定された「都心まちづくり計画」(平成14年度)では、都心の骨格構造として4つの軸と3つの交流拠点を定め、この骨格構造を中心に重点的に取り組みを進めてきた。  
札幌駅・大通駅周辺地区(以下、「当地区」という。)は、道都札幌の玄関口であるJR札幌駅と地下鉄3線が結節する大通駅間にあって、都心の骨格構造「にぎわいの軸(駅前通)」「大通交流拠点」を中心とした地区であり、札幌都心の中核として高次都市機能が高密度に集積した地区である。

当地区の北端に当たる地下鉄さっぽろ駅コンコースは札幌駅前通公共地下歩道として都市計画道路の決定を受けているが、JR札幌駅から平成23年3月開通の駅前通地下歩行空間を結ぶ位置にあり、地下鉄利用者のみならず、多くの人々が行き交う空間となっている。

また、当地区の中央に当たる大通交流拠点(地下鉄大通駅)は地下鉄コンコースでありながらオーロラタウン、ポールタウンなどの地下街を結び、地下歩行空間ネットワークの一大結節点となっており、地下鉄利用者のみならず多くの市民が利用する空間となっているが、駅前通地下歩行空間の大通側の接続点となることにより、歩行者数が増加している。

なお、当地区の全部は、都市再生特別措置法に基づく都市再生緊急整備地域内にあり、その地域整備方針においては、「札幌駅前通や創成川通の整備効果を活かし、都心の骨格軸や展開軸、交流拠点を基軸とする歩いて暮らせる豊かで快適な都心の創造に向けた多様で高次な機能が複合した市街地を形成」することを目指すとしている。また、当地区の全部は平成24年1月に指定された特定都市再生緊急整備地域内にある。

一方、当地区においては、大通交流拠点において、札幌市及び周辺地権者による「大通交流拠点まちづくりガイドライン」の策定(平成19年3月)及び周辺地権者による地区計画の都市計画提案(平成19年7月)、大通以北の駅前通沿道において、沿道地権者による地区計画の都市計画提案(平成20年7月)など、官民協働のまちづくりが進展しており、現在、周辺の民間事業者においては、ガイドライン・地区計画に沿った建替・地下空間との接続が進んでいる。

また、大通以南の商業地区において「札幌大通まちづくり株式会社」が平成21年9月に設立、大通以北の駅前通沿道地区において「札幌駅前通まちづくり株式会社」が平成22年9月に設立されたほか、南一条地区(南一条地区開発事業推進協議会)や四番街地区(四番街商店街振興組合)などで、地元によるまちづくり計画策定等の機運が高まっているなど、都心部においてエリアマネジメントが進展している。

加えて、札幌大通まちづくり株式会社を平成23年12月に「都市再生整備推進法」(推進法)に指定し、官民連携の都市開発事業を推進する。

#### 課題

- 駅前通地下歩行空間の開業に伴い、地下歩行空間のネットワークが形成され、歩行者数が増加しており、これに対応したゆとりある歩行者空間の整備・充実が求められている。
- 併せて地下歩行空間ネットワークの結節点となる当地区においては、都市生活の豊かさを幅広く支える拠点として利便性の向上やにぎわい機能、文化芸術等の情報発信機能の充実が求められている。

#### 将来ビジョン(中長期)

##### ①第4次札幌市長期総合計画(2000-2020)(平成11年度策定)

- 歩行者を重視した都市基盤施設の整備などによる環境負荷低減と人にやさしい交通の実現
- 札幌の活力を高める中心拠点としての機能の一層の集積・多様な都市サービスの提供
- 人のさまざまな交流、情報の受発信、芸術文化活動が活発に展開される場の形成

##### ②都心まちづくり計画(2002-2022)(平成14年度策定)

【にぎわいの軸(駅前通)】～目標:札幌の目抜き通りとしてのにぎわい、多様性、美しさを創出する・都心の楽しさを味わいながら歩くことができるストーリー性のある通りを形成する。

- 地上及び地下における重層的な歩行者空間ネットワークの形成
- まち歩きを楽しく快適なものにするための公共空間等の多面的な活用
- 情報提供機能、休憩・滞留支援機能等の確保
- 特徴のある結節点の形成

【大通交流拠点】～目標:人びとの多様な交流を支援するとともに都心内での中心を象徴的に表現する「サッポロ広場」の形成

- 市民や札幌を訪れる人びとの多面的な交流を支える機能の誘導
- 歩行者のための、わかりやすくゆとりのある空間の形成
- 建築物と公共空間の調和による象徴的空間の形成

##### ③都市再生緊急整備地域「札幌都心地域」地域整備方針(平成14年度指定、平成25年度変更)

- ～目標:札幌駅前通や創成川通の整備効果を活かし、都心の骨格軸や展開軸、交流拠点を基軸とする歩いて暮らせる豊かで快適な都心の創造
- ・広場空間の整備・活用により、災害時の避難路としても活用可能な地上・地下の重層的な歩行者ネットワークを充実・強化

##### ④特定都市再生緊急整備地域「札幌都心地域」地域整備方針(平成24年度指定、平成25年度変更)

- ～目標:優れたまちづくりを通じて世界都市となることを目指す札幌市の都心において、都市機能の集積・高度化、都市空間・エネルギー等のネットワーク形成、エリアマネジメントの展開を推進し、災害にも強く、国際的な活動の拠点にふさわしい市街地を形成、併せてこれらの優れたまちづくりの展開をパッケージとして国内外に情報発信
- ・駅前通地下歩行空間や創成川公園などの整備効果を活かし、北3条広場や札幌駅前通と大通が交差する交流拠点における地下広場等、国内外の人々の交流を促進する広場空間を整備



## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【四季を通して快適に歩ける空間の創出による都心の回遊性向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとりある歩行空間・見通し確保のための支障物の撤去・移設</li> </ul>	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設 広場)大通交流拠点整備事業</p> <p>【関連事業】札幌駅前通地下歩行空間整備事業</p> <p>【協定制度】官民連携による都市の美化、駐輪対策の実施</p>
<p>【魅力ある滞留空間・交流拠点の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・憩い・待合い等のための滞留空間の整備</li> <li>・交流拠点としてのシンボル性を表現した空間形成(地上と地下をつなぐ一体的な空間と動線整備)</li> <li>・利便性向上のためのサービス機能集約</li> <li>・その他交流拠点にふさわしい新規機能導入(情報提供機能の充実等)</li> <li>・駅前通における、常設オープンカフェ等設置によるにぎわいの創出</li> </ul>	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設 広場)大通交流拠点整備事業</p> <p>【基幹事業】(高次都市施設 観光交流センター)大通交流拠点整備事業</p> <p>【関連事業】札幌駅前通地下歩行空間活用推進事業</p> <p>【提案事業】地域創造支援事業(図書カウンター整備)大通交流拠点整備事業</p> <p>【協定制度等】都市利便増進協定、特例道路占用区域の活用</p>
<p>その他</p> <p>※当地区周辺における協働型のまちづくりの進捗状況の補足</p> <p>【大通交流拠点まちづくりガイドラインの概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆方針1 都市の中心を表現する広場空間をつくる <ul style="list-style-type: none"> <li>●地下鉄大通駅を中心に周辺建物地下部と一体となる広場空間をつくる <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下歩行空間、駅コンコースと建物地下階を幅員で接続</li> <li>・広場空間での活動を豊かにするため、地下階に市民が気軽にアクセスできる機能を配置</li> </ul> </li> <li>●地上・地下の一体性を表現するシンボリックな広場空間をつくる <ul style="list-style-type: none"> <li>・地上と地下を結びつける空間、装置の設置</li> </ul> </li> <li>●広場空間で多様なアクティビティが可能になる仕組みをつくる <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下鉄コンコースの設置物の移設による見通しの確保</li> <li>・休憩、待ち合わせなどができる空間の確保</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>◆方針2 都市軸のクロスポイントとして印象的で美しい姿とする <ul style="list-style-type: none"> <li>●歩行者が滞留できる空間や辻の空間に楽しめる場を設ける</li> <li>●建物の外観や空間の演出により、質の高いデザインの印象的な街角をつくる</li> </ul> </li> </ul> <p>【その他官民協働の取り組み事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌創世1.1.1区推進連絡会によるまちづくり指針の策定(平成22年3月)</li> <li>・札幌創世1.1.1区北1西1地区市街地再開発事業準備組合の設立(平成21年9月)</li> <li>・都市再生特別地区を活用した民間事業者による大規模開発と北三条広場の整備(予定)</li> <li>・狸小路商店街振興組合、二条魚町商業協同組合、地元町内会等による創成川公園広場の活用検討</li> </ul> <p>【都市再生特別措置法の一部を改正する法律(平成23年法律第24号)の施行に伴い、都市再生特別措置法第46条第10項に基づき都市再生整備計画に追記する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前通(一般国道36号、南1条～南4条間)における都市利便増進協定、道路占用許可の特例を活用した施設整備等を行う。</li> </ul>	

